

＜県研究主題＞

児童一人ひとりの言語活動を充実させ、「伝え合う力」の育成を重視した学習指導と評価の工夫・改善

提案 1

提案者 千葉 香織（県央地区）

＜研究主題＞

登場人物相互の心情にせまるための言語活動の工夫 その成果と課題  
～小学校5年生における物語文の読みを通して～

1 提案内容

これまでの国語の「読むこと」の授業を振り返り、場面分けをし、読み取り中心の授業になっていることや学習計画が子どもと共有できていないことが課題として出てきた。子どもたちが、「読むこと」の単元に目的をもって取り組み、日常生活の読書へと広げていけるような言語活動を工夫していきたいと考えた。

(1) 実践内容について（提案資料参照）

登場人物相互の心情にせまるための言語活動の工夫

- ①読書タワー・・・教材文「大造じいさんとガン」で、タワーの4面に、登場人物相互の心情にせまるための読みの課題を設定した。
- ②並行読書・・・動物と人間の心が通い合うシリーズの本を並行読書し、自分が選んだ本でも、読書タワーを作成した。
- ③読書交流会・・・並行読書で選んだ本の読書タワーをもとに交流会を行った。

(2) 成果（○）と課題（●）

- 読書タワー・・・課題が明確で見通しがもて、意欲的に取り組むことができた。
- 学校図書館司書と協力し、ブックリストを作成することができた。
- 少人数で話しやすい場での交流会としたことで、自然に質問を交えながら会話する様子が見られた。
- 並行読書で選んだ本によっては、ねらいと違った視点でタワーを書いていた子もおり、ブックリスト作成の際には、よく吟味することが必要。

2 協議内容

(1) 読書タワーについて

Q：タワーの4面のうちの「盛り上がる場面」「作品の心」について。

A：「盛り上がる場面」は、気もちの変化に気づいてほしかった。「作品の心」は、大切だと思っていることをしぼらずに、子どもたちが思ったことを大切にしたい。

(2) 並行読書について

Q：子どもたちの紹介したいという思いを大切にしたいが、把握しきれない。子どもたちは、リストから選んだのか。手元には、一冊ずつあったのか。

A：司書に、授業について詳しく伝え、目的にあった本を選んでもらった。児童数分をそろえるのは、難しかった。

(3) 評価規準について

Q：つける力を掲示し、子どもたちが見通しがもてたのがよかった。単元計画の評価規

準に「優れた叙述を読んでいる」とあるが、子どもたちに、どのように投げかけたのか。

A：タワーの4面の一つ、「盛り上がる場面」として書いたことが、「気持ち・行動の変化」が表れているところと捉えた。「どこで、そう思った？」と投げかけ、本文にもどることが、「優れた叙述」を読むことにつながると考えた。

質問者からのご意見：読み取り中心になっていた時と比べ、子どもたちが変容したきっかけは、どこにあったのか考えていくことが大切。

### 3 指導・助言

- ・言語活動の充実に取り組んだ実践で、子どもたちが、読書交流会という目的をもって、読みを進められるようにしていた。
- ・読書交流会を行うための読書タワー作りは、問題解決的な学習活動になっていた。タワーを作る際、子どもたちは本文を何度も読み返していた。4つの面は、指導のねらいにあったものにする。
- ・言語活動を行う際、ねらいにあっているのか、自分で実際にやってみることが必要。
- ・並行読書は、比べて読むことができるように、ねらいに沿った本を選ぶ。

## 提案2

提案者 渡辺 誠（横浜地区）

### <研究主題>

複数の情報を関連付けて登場人物の性格を読む力を育てる指導と評価

### 1 提案内容

登場人物の性格を読む力を付けるためには、シリーズを読んだり、友だちと互いの考えを交流したりして得られる複数の情報を関連付けて読むことが有効だと考えた。

#### (1) 実践内容について（提案資料参照）

- 「物語マップを使ってシリーズを読むこと」を言語活動に設定した。
  - ・「車のいろは空のいろ」の付録の地図上に物語マップを展開した。
  - ・自分読み～グループ読み～全体読みと行った。
  - ・児童が変容を自覚できるように、振り返りシートを活用した。

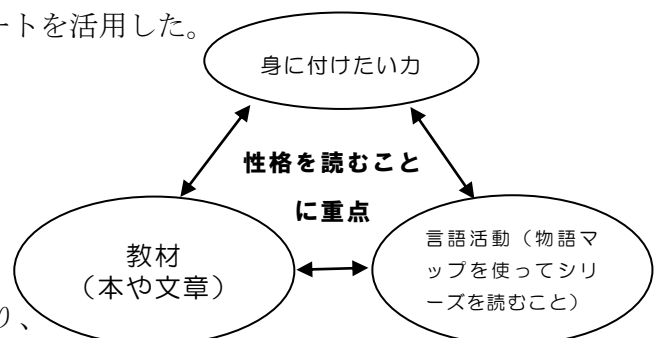
#### (2) 有効であった手立て

- ① 読みの視点を絞る
- ② 複数の情報の関連付け
- ③ 思考の可視化ツール（物語マップ）の活用

#### (3) 実践を行って

日常の読書生活でも変化が見られるようになり、シリーズの本を探すなど読書を楽しむ姿が見られるようになった。

「活動は楽しく 力は確実に」



### 2 協議内容

#### (1) 授業実践について

Q：関連付けるとは、具体的にどのような働きかけをしたか。

A：「関連付ける・思考力・判断力」をテーマに学校で取り組んでいる。どの教科もやろうと

することが前提。子どもたちは何を見たいの？目的や課題に応じて着眼点を教えてあげる必要がある。見つけてきたものをみんなが見えるようにする。

Q：もし来年、同じ授業をされるとしたら？

A：たくさんの本を読ませたいが、学習のねらいを達成させるためには、8つの本を読ませるが「この話のここ」と着眼点を出すと思う。

Q：「白い帽子」では、3・4時の2時間で叙述にこだわらせたいが、子どもが気付かない所はばっさり切ったのか。

A：言語活動のプロセスをどう考えるのか。問題解決を考えた時には、教材文はそのために使う。「性格を読む力」をつけるには、情報がたくさんあった方がいいことに子どもが気付くことが大切。個人的には、今までのやり方より明らかに子どもの力が付いたと思う。

(2) 支援、小中一貫について

Q：評価規準と照らしてBの姿を実現していないと判断した子どもに対する手立ては？

A：すべての子が8話読めない。前提としては、どこの学年でもシリーズ読書は勧める。担任や読書ボランティアの人が国語の時間以外で読む機会を持つ。

Q：小中一貫で考えた時は？

A：中学校では、ノートや要点指導をして欲しいと言われる。今後ノート指導も考えていきたい。交流は年に2，3回もっている。

### 3 助言

- ・学習要領をよく読んで、小中と先を見通していき、児童が主体的・自律的に学習できることが大切。
- ・付きたい力を絞り、学習材の分析が大切。年間を通して、マトリックスを作っていく。
- ・身につけさせたい力をつける言語活動は何か考え、あれもこれもは、「ねらい」がずれる。
- ・言語活動はあくまでも手段。マップをまとめる楽しさから、主体的な学びが行われた。目的が明確で、8つのお話を読むことで、比べ読みに繋がる学習であった。先生は必ず読んでおき、学習のゴールを見せておく。
- ・ねらいに則した本を読ませる。
- ・自分と違う意見の人と交流する。グループで考えた「性格」は、まとめる必要はない。一人ひとりのマップで、自分の考えをもたせる。
- ・「振り返り」と「再読」が大事。気付かなかった読みに気付く。
- ・「読書の力」系統をしっかりと理解して進めていく。
- ・「教材で教える」から「教材で育てる」

### 協議の柱に即したグループ協議

協議のテーマ「読書活動の充実を踏まえた授業づくり～学校司書との連携を一つの視点に～」に沿ってグループ協議を行い、キーワードにまとめて発表し、全体で共有した。

Aグループ：「司書との連携の前に」

- ① 授業のあと図書室に行きたくなる。

Bグループ：「読み聞かせ」

- ① 低学年からの読書習慣。
- ② 学校司書さんの協力を得て。

### Cグループ：「働きかけるのは教師から」

- ① 計画的に。早めに連絡を取る。
- ② 常に連携を意識する。

### Dグループ：「まず、手に取らせる」

- ① 読まない子が「おもしろい」と思える授業。(視覚的にも)
- ② 人材と予算 → いつでも興味を持った本を手にとれる環境の整備。
- ③ 他教科とも関連させ、ジャンルを広げる。

### Eグループ：「並行読書を効果的に！」

- ① シリーズ読書の視点を明確に。
- ② 選書には司書教諭の力を。

### Fグループ：「子どもの読書の幅を広げる！」

- ① 教科書と図書室の棚をつなぐ。
- ② 読むことのポイントをしぼる。

### Gグループ：「環境整備が大切！」

- ① 学校全体で共通認識。
- ② 授業に使いやすい整備。
- ③ 他教科との関連。

## 全体のまとめ

### (提案実践について)

- 読書タワー・・・4面で何をねらいとするかが、評価になる。なぜ、ここにそれを書かせるのか考えていく。
- 物語マップ・・・マップの上で動作化することで、疑似体験をしている。読んだことを視覚化することが、理解につながっている。
- 学校図書館法が一部改正され、学校図書館に司書をおくことが、努力義務となった。今後、司書をどう活用していくのか課題となってくる。
- 子どもたちの学校図書館利用率について。学校図書館は、「読書センター」、「学習・情報センター」として、また、「居場所」としても、大切な役割を担っている。

### (まとめとして)

- 国語科単元構想「これだけは！」
- 「付きたい力」を明確化すること
  - ☞学力の具体としての指導事項、指導内容を理解することから
- 効果的な指導のための言語活動(学習活動)を開発・選定すること
  - ☞指導事項、指導内容とのマッチングに留意
  - ☞学習課程を課題解決的にデザインする
- 評価計画の工夫
  - ①評価規準の設定 ☞評価規準の具現化
  - ②評価時期の設定
  - ③評価方法の設定
  - ④指導の手立て